

2024年度 森下記念病院における看護職員負担軽減計画

<p>2024年3月末現在の看護職員の勤務状況</p> <p>1 (正・准)看護師数 62名 ・うち常勤 43名 ・非常勤 19名 (休職者含めず)</p> <p>2 月平均 4.1回</p> <p>(月延夜勤時間数を職員数で除算し1人当たりの月平均夜勤時間数から回数を算出)</p>

<p>目標</p> <p>①月1残業内容の評価を行い、各部署の特徴を把握した。今後、電子カルテ機能の更なる活用により記録の簡素化をすすめていく。</p> <p>②他職種からの積極的な協力により、看護師の業務整理に着手できた。今後更に業務拡充できる職種の協力を得ることにより、時間外労働の減少に努める。</p> <p>③24時間院内保育所の活用と多様な勤務時間調整、状況に応じ配置換えを実施し勤務継続できた。今後も、妊娠、子育て、介護、闘病中など、職員の人生に沿った状況に適宜対応し永く続けられる職場作りに取り組む。</p>
--

様式13-3 取組項目	現状・問題点	具体的な取り組み内容	目標達成年次	主たる所管部署	達成項目のチェック	
					2025年3月	
イ	外来医事課が右記業務を担うことにより、看護師の業務負担を軽減できる。 (新規)	1.外来医事課でオーダー全てが実施になれば会計入力をする事で問い合わせ回数を軽減する。 2.医事課にて内容を聞き取り、内容に応じた部署へ電話をつなぐ 3.受付看護師の設置 4.音声による内容の振り分けシステム導入 5.PD管理料・処置等の電子カルテ入力	2024年度内の実現を目指す	外来医事課	<input type="checkbox"/>	%
イ	健診センター事務が右記業務を担うことにより、看護師の業務負担を軽減できる。 (新規)	事前に郵送する婦人科問診票を、看護師が必要とする内容を予め含め受診者様が記入しやすいフォーマットへ変更する。	2024年度内の実現を目指す	健診	<input type="checkbox"/>	%
ア	長時間の時間外労働が発生しないよう、業務量の調整を行い、有給休暇取得率80%以上を目指す。 (継続)	1.病棟別に勤務時間、超過勤務時間とその内容、有給取得率を調査する。 2.有給休暇の取得が進んでいない部署の実情を調査し、具体策を見出す。 3.時間外勤務内容の調査、分析を毎月1回看護部会議にて実施。各課長と情報共有し具体的対策案を提言する。	2025年度内の実現を目指す。	看護部	<input type="checkbox"/>	%
イ	薬剤師が、右記業務を担うことにより、看護職員の負担を軽減する。 (継続)	1.入院時における持参薬の確認・管理。 2.中止・休薬の再調整。 3.残薬確認。 4.薬剤管理指導の強化。 5.病棟の注射薬剤在庫管理。 6.救急カートの薬品管理協力。 7.看護必要度A項目に関連した、院内使用注射薬剤情報の適切な管理。 8.療養病棟の薬カートチェック	2024年度内の実現を目指す。	薬剤課	<input type="checkbox"/>	%
イ	臨床検査技師が、右記業務を担うことにより、看護職員の負担を軽減する。 (継続、一部新規)	1.採血、心電図等可能な検査実施協力。 2.発熱者の鼻咽頭ぬぐい検査協力。 3.グルテストセンサー精度管理(外来含む)。 4.未実施の検体確認と案内。 5.予約スピッツの準備 6.訪問診療の援助 (新規)	2024年度内の実現を目指す。	検体検査課	<input type="checkbox"/>	%
イ	放射線技士が、右記業務を担うことにより、看護職員の業務負担を軽減する。 (継続、一部新規)	1.CT造影時、医師または看護師が確保した静脈路に造影剤を接続すること及び造影剤自動注入器の操作実施。 2.造影剤投与終了後の静脈路の抜針及び止血実施。 3.CT造影直後自動血圧測定。 4.検査終了患者搬送。 5.病棟患者の検査搬送補助 6.PTA検査の物品搬送・準備 (新規) 7.PTA使用機器の在庫管理補助 (新規) 8.当日検査スケジュールの調整(生理検査課との調整など) (新規)	2024年度までに所定の研修修了し、実現を目指す。	放射線課	<input type="checkbox"/>	%

様式13-3 取組項目	現状・問題点	具体的な取り組み内容	目標達成年次	主たる所管部署	達成項目のチェック	
					2025年3月	
イ	臨床工学技士が、右記業務を担うことにより、看護職員の業務負担を軽減する。 (継続、一部新規)	1.患者の情報収集の一部を担う。 2.透析記録業務の援助。 3.透析中、創傷処置や薬剤関連以外のフロアー透析業務全般を協力体制で実施。 4.PD外来の診療補助やカテーテル交換、患者指導、病棟でのプライミングやAPD装置の管理、遠隔モニタリングなどを行う。 (新規)	2022年度より移行開始。徐々に拡大中。	臨床工学課	<input type="checkbox"/>	%
イ	理学療法士が、右記業務を担うことにより、看護職員の負担を軽減する。 (継続)	1.病棟でのトランスファー指導、相談に応じ、看護助手指導援助を実施。 2.褥瘡回診、フットケア回診時に良肢位の保持などADL動作の指導、相談に応じる。 3.ベッドサイドのリハビリ実施時等に、リハビリ対象外の患者においても体位交換等のサポートを実施。	2024年度内の実現を目指す。	リハビリ課	<input type="checkbox"/>	%
ア・イ	クラークが、右記業務を担うことにより、記録業務負担を軽減し病棟看護師の残業時間を減らす。 (継続)	1.各文書手続き、代行作成。 2.看護必要度入力確認協力。 3.予定入院の入院案内(非常口・トイレなどの説明) 4.スキャン資料の管理。 5.看護職員が行う看護日誌入力、書類・伝票の整理、作成の代行や電子カルテの代行入力について業務分担を推進する。 6.検体検査課(検査準備、検体出し)との対応を代行。 7.面会者の対応。 8.療養目的入院患者様の基本情報入力。 9.退院患者様対応(診察券、次回外来予約日調整)。 10.VA患者様退院時、紹介元へ連絡。 11.PTA決定後、各種文書手続き(文書印刷～サインを頂き、スキャンまで) 12.回診の事前準備 13.各種ワクチン接種業務統括。 14.外来における電話交換手としての機能維持	2024年度内の実現を目指す。	支援課 (クラーク)	<input type="checkbox"/>	%
イ	資材管理事務員が、右記業務を担うことにより、看護職員の負担を軽減する。 (継続)	1. 全部署棚卸し及び在庫管理表の随時変更更新。	2024年度内の実現を目指す。	資材管理課	<input type="checkbox"/>	%
イ	診療情報管理士が、右記業務を担うことにより、看護職員の負担を軽減する。 (継続)	1. 様式1資料作成に必要な項目の情報収集と入力。	2024年度早期に可能とする。	診療情報管理室	<input type="checkbox"/>	%
イ	SEが、右記業務を担うことにより、看護職員の負担を軽減する。 (継続)	1. 電子カルテオーダー変更及び新規オーダー作成。 2. テンプレート作成。 3. 新入職Drへの電カル操作オリエンテーション。	2024年度内の実現を目指す。	システム管理室	<input type="checkbox"/>	%
イ	管理栄養士が、右記業務を担うことにより、看護職員の負担を軽減する。 (継続)	1.栄養治療実施計画の作成。 2.栄養指導の実施。 3.食事形態、付加食などの相談業務。 4.食事指示の入力・確認業務。 5.遅食、配茶対応。	2024年度内の実現を目指す。	栄養課	<input type="checkbox"/>	%

様式13-3 取組項目	現状・問題点	具体的な取り組み内容	目標達成年次	主たる所管部署	達成項目のチェック	
					2025年3月	
イ	外部委託業者が、右記業務を担うことにより、看護職員の負担が軽減できる。 設備改善による看護職員・補助者の負担が軽減できる (継続、一部新規)	1. エンゼルケア。 2. 必要物品補充業務。 3. シーツ交換、環境清掃業務。 4. 訪問入浴サービス導入 (新規) 5. 機械浴導入 (新規)	2024年度内の実現を目指す。	看護部	<input type="checkbox"/>	%
ウ	一般病棟と療養病棟の特徴に合わせ、看護補助者の適切な配置・増員を図り、看護職員の負担を軽減する。 未経験の派遣看護助手に頼らざるを得ない実情のため、質向上が必要である。 (継続)	1.療養病棟に介護福祉士を配置し、夜勤要員として活用する。 2.看護師の指示の下、看護補助者組織を結成。介護福祉士を中心とした研修を実施し、質向上を図る。 3.看護補助業務の標準化が不十分であるためナーシングスキルライトを活用し手順の可視化、標準化を図る。	2024年度までには介護福祉士を中心とした組織の確立を目指す。	看護部	<input type="checkbox"/>	%
オ	一般病棟は、即入も含め、入退院が多く超過勤務が多い。 (継続)	1.多様な勤務形態の導入を図る。 2.入院予約の多い日に合わせ、フリー業務看護師を短時間導入する。	継続	看護部	<input type="checkbox"/>	%
カ・エ	ライフワークバランスを維持し、長く働くことができる職場を目指すため、妊娠、子育て、介護中の看護職員に対する配慮が必要である (継続)	1.森下記念病院育児・介護休業などに関する就業規則に則り柔軟に対応する。 2.24時間院内保育所の活用。 3.夜勤減免制度。 4.半日有給休暇。 5.他部署への配置転換。 6.保育士の採用枠増加。紹介会社からの登用も可能とし、多様な勤務時間に対応する。	継続	保育課 総務課	<input type="checkbox"/>	%
キ	夜間ナースコールの80%は介護関連であり、看護補助者が対応できる。 夜間外来対応が療養病棟のみであるため、精神的負担がある。 (継続)	1.一般病棟夜勤は看護師3名に看護助手1名を加え4名体制とする。 2.療養病棟夜勤は看護師2名、介護福祉士1名の3名体制を維持する。 3.夜間外来対応を、療養病棟と一般病棟で1か月ごとの輪番制にする。	2024年度までに人員確保し実現する。	看護部	<input type="checkbox"/>	%
エ・オ	看護職員が不足している。 (継続)	個人のライフイベントに応じて働き方を選択できる「多様な勤務形態」の導入により、ライフワークバランスを維持し、働き続けられる職場を作る。	継続	看護部 総務課	<input type="checkbox"/>	%